

精神医学

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	1 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(2 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	4 人	(2 人)
診療助教	1 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	3 人	
医員	2 人	
研修医	3 人	
特任研究員	5 人	
大学院学生（うち他講座から）	2 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	10 人	
合計	34 人	

2 教員の異動状況

森 則夫	（教 授）	（平成 8 年 4 月 1 日 ～ 現職）
鈴木勝昭	（准教授）	（平成 25 年 4 月 1 日 ～ 現職）
岩田泰秀	（講 師）	（平成 19 年 4 月 1 日 ～ 現職）
竹林淳和	（講 師）	（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 現職）
和久田智靖	（助 教）	（平成 21 年 4 月 1 日 ～ 現職）
横倉正倫	（助 教）	（平成 24 年 4 月 1 日 ～ 現職）
亀野陽亮	（助 教）	（平成 25 年 4 月 1 日 ～ 現職）
栗田大輔	（助 教）	（平成 23 年 4 月 1 日 ～ 現職）
長由利子	（診療助教）	（平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月末日退職）
佐久間俊一	（医 員）	（平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 26 年 12 月末日退職）
村山千尋	（医 員）	（平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月末日退職）
山田岳史	（医 員）	（平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月末日退職）
松尾香弥子	（特任准教授）	（平成 26 年 4 月 1 日 ～ 現職）
浅川哲也	（特任講師）	（平成 26 年 4 月 1 日 ～ 現職）
高橋太郎	（特任助教）	（平成 26 年 8 月 1 日 ～ 現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成26年度	
(1) 原著論文数 (うち邦文のもの)	12 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	59.72	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	3 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	5 編	(5 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線) 論文ごとにインパクトファクターを記載願います。

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Wakuda T, Iwata K, Iwata Y, Anitha A, Takahashi T, Yamada K, Vasu MM, Matsuzaki H, Suzuki K*, Mori N. Perinatal asphyxia alters neuregulin-1 and COMT gene expression in the medial prefrontal cortex in rats. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry*. 2015 Jan 2; 56:149-54. 【精神医学】 [IF: 4.025]
2. Vasu MM, Anitha A, Thanseem I, Suzuki K*, Yamada K, Takahashi T, Wakuda T, Iwata K, Tsujii M, Sugiyama T, Mori N. Serum microRNA profiles in children with autism. *Mol Autism*. 2014 Jul 30; 5:40. 【精神医学】 [IF:5.486]

インパクトファクターの小計 [9.511]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Wakusawa K*, Sugiura M, Sassa Y, Jeong H, Yomogita Y, Horie K, Sato S, Yokoyama H, Kure S, Takei N, Mori N, Kawashima R. Adaptive ability to cope with atypical or novel situations involving tool use: an fMRI approach. *Neurosci Res* 90: 72-82, 2015. 【神経科学】 [IF: 2.145]
2. Asano R, Tsuchiya KJ, Takei N, Harada T, Kugizaki Y, Nakahara R, Nakayasu C, Okumura A, Suzuki Y, Takagai S, Mori N.: for HBC Study Team. Broader autism phenotype as a risk factor for postpartum depression: Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study. *Research in Autism Spectrum Disorders* 8: 1672-78, 2014. 【精神医学】 [IF: 2.378]
3. Anitha A, Thanseem I, Nakamura K, Vasu MM, Yamada K, Ueki T, Iwayama Y, Toyota T, Tsuchiya KJ, Iwata Y, Suzuki K, Sugiyama T, Tsujii M, Yoshikawa T, Mori N.: Zinc finger protein 804A (ZNF804A) and verbal deficits in individuals with autism. *J Psychiatry Neurosci* 39(4): 130126, 2014. doi: 10.1503/jpn.130126. 【精神医学】 [IF: 6.242]

4. Muramatsu-Kato K, Itoh H, Kobayashi-Kohmura Y, Murakami H, Uchida T, Suzuki K, Sugihara K, Kanayama N, Tsuchiya KJ, Takei N, for Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study. Comparison between placental gene expression of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenases and infantile growth at 10 months of age. *J Obstetr and Gynaecol Res.* 40:465-72, 2014. 【産婦人科学】 [IF: 0.841]
インパクトファクターの小計 [11.606]
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Balan S*, Iwayama Y, Maekawa M, Toyota T, Ohnishi T, Toyoshima M, Shimamoto C, Esaki K, Yamada K, Iwata Y, Suzuki K, Ide M, Ota M, Fukuchi S, Tsujii M, Mori N, Shinkai Y, Yoshikawa T. : Exon resequencing of H3K9 methyltransferase complex genes, EHMT1, EHTM2 and WIZ, in Japanese autism subjects. *Mol Autism.* 2014 Oct 6; 5(1):49. 【精神医学】 [IF:5.486]
2. Maekawa M*, Yamada K, Toyoshima M, Ohnishi T, Iwayama Y, Shimamoto C, Toyota T, Nozaki Y, Balan S, Matsuzaki H, Iwata Y, Suzuki K, Miyashita M, Kikuchi M, Kato M, Okada Y, Akamatsu W, Mori N, Owada Y, Itokawa M, Okano H, Yoshikawa T. : Utility of Scalp Hair Follicles as a Novel Source of Biomarker Genes for Psychiatric Illnesses. *Biol Psychiatry.* 2014 Sep 11. doi: 10.1016/j.biopsych.2014.07.025. [Epub ahead of print] 【精神医学】 [IF:9.472]
3. Shimamoto C*, Ohnishi T, Maekawa M, Watanabe A, Ohba H, Arai R, Iwayama Y, Hisano Y, Toyota T, Toyoshima M, Suzuki K, Shirayama Y, Nakamura K, Mori N, Owada Y, Kobayashi T, Yoshikawa T.: Functional characterization of FABP3, 5 and 7 gene variants identified in schizophrenia and autism spectrum disorder and mouse behavioral studies. *Hum Mol Genet.* 2014 Dec 15;23(24):6495-511. 【精神医学】 [IF:6.677]
4. Anitha A, Thanseem I, Nakamura K*, Vasu MM, Yamada K, Ueki T, Iwayama Y, Toyota T, Tsuchiya KJ, Iwata Y, Suzuki K, Sugiyama T, Tsujii M, Yoshikawa T, Mori N. Zinc finger protein 804A (ZNF804A) and verbal deficits in individuals with autism. *J Psychiatry Neurosci.* 2014 Sep; 39(5):294-303. 【精神医学】 [IF:7.492]
5. Iwata K, Matsuzaki H, Tachibana T, Ohno K, Yoshimura S, Takamura H, Yamada K, Matsuzaki S, Nakamura K, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Tsujii M, Sugiyama T, Katayama T, Mori N.: N-ethylmaleimide-sensitive factor interacts with the serotonin transporter and modulates its trafficking: implications for pathophysiology in autism. *Mol Autism.* 2014 May 10; 5: 33. 【精神医学】 [IF:5.486]
6. Miyaoka T, Furuya M, Horiguchi J, Wake R, Hashioka S, Tohyama M, Mori N, Minabe Y, Iyo M, Ueno S, Ezoe S, Murotani K, Hoshino S, Seno H. Efficacy and safety of yokukansan in treatment-resistant schizophrenia: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial (a Positive and Negative Syndrome Scale, five-factor analysis). *Psychopharmacology.* 2015 Jan; 232(1):155-64. 【精神医学】 [IF:3.988]
インパクトファクターの小計 [38.601]

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 栗田大輔, 竹林淳和, 森則夫. : 女性の摂食障害と食育, 産婦人科の実際, 64 巻: pp61-65, 2015 年, 【産婦人科学】 , [IF: 0]
 2. 鈴木勝昭. 【子どもの脳画像】 ポジトロン断層法による分子イメージング. 子どものこころと脳の発達. 5 巻 1 号: pp59-67 (2014.06) 【精神医学】 , [IF: 0]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの
1. 中村和彦, 鈴木勝昭, 尾内康臣, 辻井正次, 森則夫. : 自閉症の分子基盤 自閉症の PET 研究について. 分子精神医学. 14 巻 2 号: pp88-98 (2014.04) 【精神医学】 [IF: 0]

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 栗田大輔 (著), 森則夫 (監修) : 『精神科医もできる! 拒食症身体治療マニュアル』, 金芳堂 (京都), ISBN978-4-7653-1611-8, 2014. 【精神医学】 [IF: 0]
 2. 森則夫, 杉山登志郎 (編) : 『神経発達障害のすべて DSM-5 対応』, 日本評論社 (東京), ISBN978-4-535-90431-6, 2014. 【精神医学】 [IF: 0]
 3. 森則夫, 杉山登志郎, 岩田泰秀 (編著) : 『臨床家のためのDSM-5虎の巻』, 日本評論社 (東京), ISBN:978-4-535-98402-8, 2014. 【精神医学】 [IF: 0]
 4. 鈴木勝昭 (分担執筆) : 脳やからだの特性と発達障害. 萩原拓 (編著) 『発達障害のある子の自立に向けた支援』, 金子書房 (東京), ISBN 978-4-7608-3260-6 (2015.03), pp18-25. 【精神医学】 [IF: 0]
 5. 和久田智靖 (分担執筆) : 子どものやせ症についてどのように対応していけばよいのか. 中村和彦 (編) 『子どものこころの医学』, 金芳堂 (京都), ISBN978-4-7653-1609-5 (2014.07), pp143-153. 【精神医学】 [IF: 0]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 井上淳, 星野良一, 望月洋介, 大隅香苗, 飯田妙子, 後藤知子, 高貝就, 岩田泰秀, 森則夫 : 症状ディメンションが多岐に渡り, 汚染を主とする重症強迫性障害に対する森田療法 - 暴露反応妨害法との併用によるアプローチ. 日本森田療法学会雑誌 25: pp159-169, 2014. 【精神医学】 [IF:0]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	1 件

1. 特願番号：2014-201029

名 称：不注意の測定装置、システム、方法、プログラム及び記憶媒体

発 明 者：森則夫、鈴木勝昭、土屋賢治、新村千江

出 願 日：2014 年 9 月 30 日

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 26 年度
(1) 文部科学省科学研究費	14 件 (2,600 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	4 件 (254 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	2 件 (7,057 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件 (0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- 森 則夫：科学研究費補助金基盤研究(C)「小中学校教員のメンタルヘルスについての現況調査と支援プログラムの構築」平成26～28年, 190万円, (総額380万円)
- 鈴木勝昭：科学研究費補助金基盤研究(B)「自閉症の脳内ニコチン様アセチルコリン受容体：PETによる研究」平成 26～28 年度, 520 万円, (総額 1,240 万円)
- 岩田泰秀：科学研究費補助金基盤研究(B)「統合失調症の遅発性炎症仮説の証明と予防法の開発」H26～27年度, 460万円 (総額1,420万円)
- 岩田泰秀：科学研究費補助金挑戦的萌芽「自閉症脳におけるエピジュネティクス解析」H25～27 年度, 150 万円 (総額 280 万円)
- 竹林淳和：科学研究費補助金基盤研究(C)「ADHDのドーパミンD1受容体とミクログリアの定量解析－PETによる病態解明－」平成24～26 年度,170万円 (総額400万円)
- 和久田智靖：科学研究費補助金基盤研究(C)「高機能自閉症者の脳内 GABA 濃度と各種臨床パラメーターとの関連性」平成 25～27 年度, 120 万円 (総額 380 万円)
- 横倉正倫：科学研究費補助金若手研究(B)「神経性無食欲症におけるセロトニン系異常とミクログリア活性化：PETによる研究」平成 26 年度～27 年度, 140 万円 (総額 290 万円)
- 藤田 梓：科学研究費補助金基盤研究(C)「自閉症の脳内ドーパミン系－PET による研究」平成 25～27 年度, 150 万円 (総額 390 万円)
- 青山美紗子：科学研究費補助金若手研究(B)「爪郭部毛細血管叢による自閉症早期診断法の確立」平成 26～27 年度, 110 万円 (総額 310 万円)
- 飯田妙子：科学研究費補助金挑戦的萌芽「自閉症スペクトラム障害のセロトニン系・コリン系に及ぼす活性型ミクログリアの影響」H25～26 年度, 150 万円 (総額 290 万円)

11. 井上 淳：科学研究費補助金若手研究(B)「強迫性障害を対象とした症状ディメンションに基づいた治療戦略」平成 24～26 年度, 80 万円 (総額 270 万円)
12. 望月洋介：科学研究費補助金若手研究(B)「摂食障害に対する認知行動療法における脳部位間機能的結合—機能的磁気共鳴画像による研究」平成 25～26 年度, 90 万円 (総額 320 万円)
13. 浅川哲也：科学研究費基盤研究(C)「MPTPサルにおけるSTN-DBS刺激強度と効果発現に関する病態解明の研究」H24～27年度,平成26年度 100万円.
14. 高橋太郎：科学研究費基盤研究(C)「出生時低酸素曝露ラットを用いた統合失調症ミクログリア仮説の検証」H24～26年度,平成26年度 170万円 (総額410万円)

(2) 厚生労働科学研究

1. 厚生労働省科学研究費補助金障害者対策総合研究事業(精神障害分野) H26—精神—一般—001 「摂食障害の診療対し整備に関する研究」平成 26～28 年度、分担 森則夫 74 万円 (代表：安藤哲也、2,000 万円) .
2. 厚生労働省科学研究委託費 (地域医療基盤開発推進研究字「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業) H26—統合—一般—003 「自閉症スペクトラム障害に対する抑肝散の有用性の科学的知見の創出に関する研究」平成 26～28 年度, 分担 森則夫、平成 26 年度 494 万円 (代表：宮岡剛)
3. 厚生労働省科学研究費補助金障害者対策総合研究事業 H24—精神—一般—010 「成人期以降の発達障害者の相談支援・居住空間・余暇に関する現状把握と生活適応に関する支援についての研究」平成 24～26 年度、分担 鈴木勝昭 (代表：辻井正次、9,240 千円) .
4. 厚生労働省科学研究委託費(障害者対策総合研究事業 (障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野))) 「血液バイオマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別診断法の開発に関する研究」H26～28年度, (H26—精神—一般—015) 分担 岩田泰秀, 代表研究者：橋本謙二 (千葉大学) H26年度：180万円 (H24年度総額1,950万円)

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

1. 脳科学研究戦略推進プログラム<課題F>：精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究「自閉症の病態研究と新たな診療技法 (診断・予防・治療) の開発」H23～H27 年度, 代表者 森則夫, 平成 26 年度：6,875 万円
2. 産学連携研究費 (共同研究) 大日本住友製薬㈱「自閉症診断マーカーに関する探索研究」182 万円 代表者 岩田泰秀.

(6) 奨学寄附金その他 (民間より)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	6 件
(3) 学会座長回数	0 件	2 件

(4) 学会開催回数	0 件	1 件
(5) 学会役員等回数	0 件	7 件
(6) 一般演題発表数	7 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Suzuki K. Invited lecture: Positron Emission Tomography Studies of Autism Spectrum Disorders.

International Seminar of Translational Research Center for Autism, Seoul, Korea, January 23, 2015.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

口頭発表

- Yokokura M. “A new PET tracer [¹¹C]DPA713 has a higher binding to activated microglia than the common tracer [¹¹C]PK11195 in the living human brain.”, Society for Neuroscience Annual Meeting 2014, 2014 年 11 月 15-19 日、Washington DC, USA.
- Lam S, Wakuda T., Li Q, Wei R, Zhang X, Sham PC, Wang Y, Chua SE, Takei N, McAlonan GM. Effect of Perinatal Asphyxia on Protein Expression in Rat Prefrontal Cortex during Postnatal Development. International Meeting for Autism Research (IMFAR) 2014. May 14-17, 2014. Atlanta, GA, USA.
- Vasu MM., Anitha A, Thanseem I, Suzuki K., Tsujii M, Sugiyama T, Mori N.: Serum Micorna Profiling in Children with Autism. International Meeting for Autism Research (IMFAR) 2014. May 14-17, 2014. Atlanta, GA, USA.

ポスター発表

- 松尾香弥子 : 国際磁気共鳴医学会, 会期 : 2014年5月10-16日) 発表タイトル : Clustering of contrast estimate patterns of fmri to untangle genotypic effects on whole brain networks. 学会名 : International Society for Magnetic Resonance in Medicine発表年月 : 13 May 2014 開催都市名 : イタリア・ミラノ
- Haramaki T, Tsuchiya KJ, Nakahara R, Wakuta M, Suzuki K., Mori N., Katayama T. Ka-o-TV: an eye gaze detector for early diagnosis of ASD phenotype. The 13th International Meeting for Autism Research, Atlanta GA, May 15-17, 2014.
- Matsuzaki H, Iwata K, Nakamura K, Tsujii M, Mori N.: Specific Hypolipidemia Caused By VLDL Lipolysis in Children with ASD. International Meeting for Autism Research (IMFAR) 2014.
- Iwata K, Matsuzaki H, Katayama T, Mori N.: Modulation of the Serotonin Transporter By Interaction with N-Ethylmaleimide-Sensitive Factor. The 13th International Meeting for Autism Research, Atlanta GA, May 15-17, 2014.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 第55回日本児童青年期精神医学会 大会長 森則夫

3) シンポジウム発表

1. 鈴木勝昭：予防精神医学と分子イメージング. シンポジウム8 『予防精神医学の可能性を探る』. 第55回日本児童青年期精神医学会総会, 浜松 (2014.10).
2. 鈴木勝昭.: 教育講演6 『発達障害の分子イメージング: ASDとADHDの神経生化学的所見』. 第55回日本児童青年期精神医学会総会, 浜松 (2014.10).
3. 岩田泰秀：『脳画像からみた初期の統合失調症』, 第55回日本児童青年期精神医学会総会, 浜松 (2014.10)
4. 竹林淳和：『神経性無食欲症に対する身体管理マニュアル導入後の治療成績の変化』, 第55回日本児童青年期精神医学会総会, 2014年10月12日、浜松市
5. 横倉正倫：“Diagnosis and Treatment of Dementia”, International symposium 4, 第110回精神神経学会学術総会、横浜市
6. 横倉正倫：“Difference in the binding of PET tracers [¹¹C]DPA713 and [¹¹C]PK11195 for activated microglial in the living human brain.”, 第37回日本神経科学大会, 2014年9月11-13日、横浜市

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 森 則夫：日本脳科学会・理事長
- 森 則夫：日本精神科救急学会・理事
- 森 則夫：日本生物学的精神医学会・評議員
- 鈴木勝昭：日本生物学的精神医学会・評議員
- 鈴木勝昭：日本児童青年期精神医学会・評議員
- 岩田泰秀：日本生物学的精神医学会・評議員
- 竹林淳和：日本生物学的精神医学会・評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2件	2件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

1. 森 則夫, Journal of Brain Science (日本脳科学会), 編集長, CiNii 登録 [IF: 0]
2. 鈴木勝昭, 子どものこころと脳の発達 (連合小児発達学研究所), 編集委員長, 医中誌登録 [IF: 0]

(2) 外国の学術雑誌の編集

1. 森 則夫, Molecular Autism (Bio Med Central), 副編集長, PubMed 登録 [IF: 5.486]
2. 鈴木勝昭, PLoS One (Public Library of Science), Academic Editor, PubMed 登録 [IF: 3.534]

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Molecular Psychiatry (USA), 1 回
2. PLoS One (USA), 4 回
3. Brain Research (UK), 1 回

9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	7 件
(3) 学内共同研究	4 件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

1. 理化学研究所、大阪大学、金沢大学、中京大学、福井大学、弘前大学との子どものころに関する共同研究
 - ① 自閉症の臨床遺伝
 - ② 脳画像
 - ③ 疫学研究 他
2. 発達障害の遺伝学的研究、国立成育医療研究センター 周産期病態研究部 秦健一郎先生、共同研究
3. PET による発達障害のセロトニン仮説の証明、浜松ホトニクス、機器・施設利用による共同研究
4. 発達障害の血清学的研究、千葉大学 橋本謙二先生、共同研究
5. 自閉症診断補助装置の開発、静岡大学工学部システム工学科 海老澤嘉伸教授および大阪大学大学院 片山泰一教授、共同研究

(3) 学内共同研究

1. メディカルフォトンクス研究センター生体機能イメージング教室、尾内康臣教授との PET 研究
2. 解剖学講座神経機能分野、佐藤康二教授との自閉症モデル動物に関する研究
3. メディカルフォトンクス研究センター光ゲノム医学研究室、簗島伸生教授との自閉症のチップ解析研究
4. メディカルフォトンクス研究センター分子病態イメージング研究室、間賀田泰寛教授・生体機能イメージング教室、尾内康臣教授・解剖学講座、解剖学神経機能分野、佐藤康二教授との予防医学研究

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	2 件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 脳画像研究：PET を中心とした発達障害の病態解明に貢献
2. 社会心理学的研究：子どもの発達に沿った課題とその対策を発信

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. わが国の若年女性に急激に増加し、低年齢化・重症化が進んでいる神経性無食欲症を安全に治療するための「身体治療マニュアル」を刊行し、このマニュアルと心理療法プログラム、デイケアを含む集約的治療プログラムを開発した。この取り組みは厚生労働省に認められ、同省が整備中の「摂食障害治療支援センター」事業において、全国5カ所に設置されるセンターの1つとして本学附属病院精神神経科が採択される見込みである。
2. 当講座とメディカルフォトンクス研究センター、浜松市、浜松ホトニクス(株)による、「こころの予防医学研究センターによる教育研究事業」が特別経費として認められ、精神神経疾患（統合失調症、認知症、うつ病、摂食障害）の予防法開発にむけ研究活動を開始した。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

上記 13 の取り組みは、わが国は勿論、国際的にみても例がなく、きわめて独創的であり、チャレンジングである。

15. 新聞・TV 報道

1. 『摂食障害家族会発足へ 悩み、抱えないで』、中日新聞、2014 年 4 月 16 日
2. 『「食事と体重安定を」摂食障害回復に向けシンポ』、静岡新聞、2015 年 3 月 24 日